

氏名（本籍）	ソ ミョンシュク 徐 明 淑 [韓国]
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	甲第 91 号
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	広島市立大学大学院学則第 35 条第 2 項及び学位規程第 3 条第 2 項の規定による
学位論文題目	青年期在日韓国人・朝鮮人のアイデンティティに関する研究 －自己イメージと言語の側面から－
論文審査委員	主 査 教 授 吉 沅 洪 委 員 教 授 岩 井 千 秋 委 員 教 授 大 庭 千 恵 子 委 員 教 授 森 谷 寛 之（京都文教大学）

論文内容の要旨

本論文は、自己イメージと民族語の学習や習得の視点から青年期の在日韓国・朝鮮人の 3 世・4 世のアイデンティティについて究明したものである。現在約 56 万 6 千人にのぼると言われている「在日」1 世（本研究は、韓国籍、朝鮮籍、あるいは帰化によって日本籍を取得した人々も含め、朝鮮半島にルーツをもつ人々のことを「在日韓国・朝鮮人」と呼び、「在日」と略称する）は民族文化を内在化した後に来日したが、日本語を母語として日本社会で生きる 3 世・4 世の若者は、従来のような目に見える否定的な環境ではなくなったものの、自分が周囲と違うと感じる日本社会の視線を内在化せざるをえず、「在日」若者のアイデンティティ模索は複雑な状況に置かれている。本研究はインタビュー研究と九分割統合絵画法を用いて、自己イメージと言語を含む文化的な側面から青年期の「在日」3 世・4 世のアイデンティティがどのような状態に置かれているかについて究明した。九分割絵画法は森谷寛之によって 1983 年に開発された。3×3 に分割されている A 4 版画用紙に、調査協力者は与えられたタイトルのもとで自由連想的にイメージを一定の順序で描き出していく手法である。

本研究の構成は、次のとおりである。

まず、第 1 章は研究の問題意識、目的、意義、論文の構成について述べている。

続く第 2 章（研究 1）では、「在日」若者のアイデンティティの形成に関連する要因のうち基本と思われる歴史的事実に関する認識と民族語の習得状況の視点からインタビュー調査を行なった。調査対象は 10 名（韓国籍 9 名、朝鮮籍 1 名）であり、以下の結果が得られた。①多くの「在日」若者は「在日」形成の歴史について詳しく知らない。②多くの「在日」若者は出自を隠し、「日本人」として生きようとしている。③多くの「在日」若者は日本社会の否定的なイメージを内在化している。④民族語と民族的な伝統文化はアイデンティティ形成に影響を及ぼしている。⑤帰属意識が希薄な者もいる。

インタビュー研究に続いて、どのような自己イメージを持っているかが自己アイデンティティの形成に関わってくると考え、九分割統合絵画法を用いた調査が行われた。この方法は、人間がことばで表現できない心的内面を具体的なイメージとして表現できるとされている。この調査は合計 65 名の「在日」（日本学校出身者 31 名と朝鮮学校出身者 34 名）を対象に調査が行われた。さらに「在日」若者の特徴をより深く理解するために日本人大学生 100 名（韓国語履修者 50 名、非履修者 50 名）、韓国人大学生 105 名（日本文学履修者 52 名、非履修者 53 名）との比較調査もあわせて行なわれた。

第 3 章（研究 2）では、「在日」若者と日韓の大学生が九分割統合絵画に付けた「気づき」のタイトル（与えられた描画のタイトルではなく、描き終えた後に被験者が自分自身の描いた絵の全体を見て新たにつけたタイトル）について GTA (Grounded Theory Approach) に従って定量分析とあわせ、質的分析を行なった結果が述べられている。主な結果は以下の通りである。①「在日」の若者は自分たちを異質ととらえる社会の視線に抵抗感を感じている。②言語を含む文化は「在日」若者の思考の範囲と形成に影響を及ぼしている。③「在日」若者のなかには新しい生き方を模索している者もいる。

第 4 章（研究 3）においては、九分割統合絵画法の描画内容について、同じく GTA に従って分析を行い、以下の結果が得られたことを述べている。①「在日」若者は日本学校出身者・朝鮮学校出身者ともに日本社会の中で自分探しに悩む傾向にある。②民族語の習得は「在日」若者のアイデンティティ形成に影響を及ぼしている。③朝鮮学校出身者は「民族、文化、歴史、国籍」などにより関心を示しているが、日本学校出身者は、これらの枠にとらわれない個人的な生き方を選択している。④日韓の大学生の場合は、相手国の言語を学習する者はそれを学習しない者よりも相手国に対する親近感と文化に対するポジティブなイメージを持つことに繋がっている。そのうち④は第 3 章でも確認されたことである。

以上の研究 1、2、3 において得られた共通の結果は、①「在日」若者は、日本学校出身者・朝鮮学校出身者ともに、日本社会の中で自分探しに悩む傾向にあることと、②民族語を含む民族文化は「在日」若者のアイデンティティ形成に影響を及ぼしていることである。

終章の第 5 章では、本研究によって得られた結論、今後の課題についてまとめている。本研究から、①「在日」家庭で早期に出自を明確にし、多文化共生社会の理念を教えることと、②そういった理念を体現した「在日」の先人の生き方をロールモデルとして提供することを提案したいと最後を締めくくっている。

論文審査の結果の要旨

本審査委員会は、外部委員として森谷寛之教授（京都文教大学）を迎え、公聴会とともに、審査委員会を 2012 年 2 月 17 日（金）に開催し、以下の結論に至った。ここに、審査結果を報告する。

1 本論文の貢献と課題

- (1) 本研究は、「在日韓国・朝鮮人」についての丹念な文献研究と併せ、彼らの歴史的背景、言語を含む文化を基盤に、在日若者の心理的状况に関して自己イメージと民族語の学習や習得の視点から青年期の在日韓国・朝鮮人の3世・4世を対象にインタビューと絵画法を用いて時間をかけて調査を行い、彼らのアイデンティティの実態を究明した点が高く評価できる。
- (2) 心理療法にも用いられる九分割統合絵画法によって描かれた絵や文字は、被験者の自由連想の過程として理解され、その描く過程において無意識の表現が追求される。本研究では、それにくわえて、描画の全体を被験者に吟味してもらって新たなタイトル（上述の「気付きのタイトル」）をつけるプロセスに注目し、感情が具現された意識の表現として分析対象とした。本研究の研究2は、「在日」若者と日韓の大学生が九分割統合絵画に付けた「気付き」のタイトルについてGTAに従って定量分析を行い、さらに質的分析を追加したものである。これは斬新な試みであり、それによって得られた知見も具体性をもった貴重なものであった点が高く評価できる。
- (3) 本研究の分析を通じて、「在日」3世・4世がどのような理由からで日本社会の中で自分探しに悩んでいるのか、民族語を含む民族文化は「在日」若者のアイデンティティ形成にどの程度影響を及ぼしているかが明らかになった。こうして得られた知見は、「在日」がより自分らしく、生きやすくするための支援に対し、臨床心理学の視点からどのように貢献できるか、具体的な示唆を与えてくれることが期待される。

本論文には、いくつかの将来的課題もみられる。

- (4) 多くの「在日」若者が通名で生活していることもあって、調査対象者を探し出すことが極めて難しい。そのため、調査対象者のバラツキ（地域、年齢）が大きくなってしまふ。このような困難さは、容易には解決しがたいが、今後長期にわたる追跡調査を行う必要性があろう。
- (5) 本研究では、民族的な教育の背景を異にする日本学校出身者と朝鮮学校出身者を同じ枠内でGTA分析に基づいて得られた結果について考察を加えた。日本学校出身者と朝鮮学校出身者を分けて分析・検討を行うことによって、カリキュラムの中で多文化共生の社会理念を教えるなどの提言もしやすくなるであろう。
- (6) 本研究は九分割統合絵画法を用いて行った調査結果についてタイトルと内容を詳しく分析を試みた。しかし、本描画法は、9つの絵画の出てくる順番、連想される順番、すなわち時間軸に沿って分析をすることが可能である。この描画法は、一枚の台紙の上で空間と時間次元を同時に表現できる方法である。空間次元の分析が主となっており、時間次元の分析が今後の課題として残されている。時間次元を分析すると、自我防衛などのメカニズムも発見できるはずである。今後、典型的な事例をケーススタディするとより豊かな研究に発展するであろう。得られた資料は大変貴重なものであるが、しかし、まだ十分に活用されていない。今後

の研究を期待したい。

2 結論

本論文には、以上の主たる貢献が認められる。また課題も今後の研究課題となるべきものであり、さらなる展開が期待される。

なお、本研究の一環として、これまでに申請者・徐明淑は、「青年期の在日韓国・朝鮮人のアイデンティティ研究—歴史認識と言語の視点から—」を異文化間教育学会第 32 回大会（2011 年 6 月 11-12 日、お茶の水女子大学）で学会発表したうえで、『グローバル化をめぐる日・中・韓国の伝統的価値観の位相』平成 20-22 年度特定研究成果報告書（2011、研究代表者：欒竹民）に掲載した。また、「九分割統合絵画法のタイトルによる青年期在日韓国・朝鮮人の自己イメージの研究—韓国・日本の若者との比較調査も含めて—」を第 3 回表現性心理療法国際学会（2011 年 8 月 6-9 日、中国・蘇州市・国際会議場）で学会報告をしたうえで、『グローバル化をめぐる日・中・韓国の伝統的価値観の位相』（溪水社、印刷中）に掲載予定である。

以上の審査結果に基づき、本論文は合格であり、申請者・徐明淑は、「博士（学術）広島市立大学」の学位を受けるに十分な資格があると認められる。

（論文の構成は、本文 100 ページ、注釈 3 ページ 6 項、引用文献 72、参考文献 143、付録資料 8 ページからなっている。）